

令和3年度大分県学力定着状況調査 結果総括

令和3年度大分県学力定着状況調査結果総括〈小学校5年〉

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「言葉の特徴や使いに関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」が県平均を上回ったほかは県平均を下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に全国平均と比較すると、「漢字を書く」が全国平均を上回ったほかは県平均を下回った。特に、「かるたの読み札について話し合う問題」「文章を書く」内容の問題は、県平均を5ポイント以上下回り、無解答率も15%以上となった。話し合う、書くといった表現力に課題があることから、段落の役割の理解や自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の明確化等、話したり書いたりする場面における指導を計画的・継続的に行いたい。その中で、事実と感想、意見を区別したり、詳しい説明を加えたりすることが必要であることを理解させたい。また、児童の話す力、書く力の実態を分析し付けたい力を意識した指導をすることも大切である。
教科の正答率	全体	69.6	71.9	65.6	話し合いの内容を聞き取る	63.0	68.2	65.0						
	知識	74.0	75.3	69.7	漢字を読む	95.0	95.1	85.0						
活用	59.7	64.2	56.3	漢字を書く	77.8	72.5	66.7							
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	77.6	76.7	68.5	言葉の学習	71.3	71.7	65.0						
	情報の扱い方	49.8	53.8	53.3	物語の内容を読み取る	75.6	78.6	73.3						
	我が国の言語文化	83.3	82.5	75.0	説明文の内容を読み取る	56.2	61.1	61.7						
	話すこと・聞くこと	54.9	60.6	57.0	かるたの読み札について話し合う	42.7	49.1	45.0						
	書くこと	65.9	71.2	58.8	文章を書く	65.9	71.2	58.8						
	読むこと	65.9	69.9	67.5										

算数				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに全国平均を下回った。 ○領域別正答率は、全て全国平均を下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、全ての内容で、県平均を下回った。「わり算・計算のきまり」「小数」「いろいろな形」「面積」「簡単な場合についての割合」「折れ線グラフと表」では、県平均を5ポイント以上下回った。児童のつまづきはどこから生じているのかを分析し、意図的・計画的に指導する必要がある。特に「求めた割合を比較し説明する問題」「折れ線グラフを読み取りそれを根拠に理由を説明する問題」の無解答率は、ともに30%を超えた。表やグラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるように指導するとともに、判断した根拠を明らかとした上で理由を説明することに慣れさせたい。その際、根拠を図や表に書き加えたりしながら説明していくことも大切である。
教科の正答率	全体	65.1	70.2	65.2	億と兆・億数の表し方	71.0	72.3	71.3						
	知識	70.8	75.3	70.5	わり算・計算のきまり	58.5	65.6	60.0						
	活用	54.1	60.4	55.0	小数	75.7	80.9	73.8						
領域別正答率	数と計算	67.3	72.2	67.2	分数	72.8	76.9	71.7						
	図形	68.3	73.6	70.0	いろいろな形	74.0	79.0	68.3						
	変化と関係	59.5	65.6	60.8	面積	61.5	67.5	68.3						
	データの活用	49.5	55.6	46.3	角の大きさ	70.1	74.5	75.0						
					変わり方調べ	63.3	67.5	65.0						
					簡単な場合についての割合	57.6	64.6	58.8						
				折れ線グラフと表	49.5	55.6	46.3							

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、全て県平均を下回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、全ての内容で、県平均を下回った。特に「物の体積と温度」「水のすがた」「物のあたたまり方」の内容は県平均を5ポイント以上下回った。その中でも「温度による体積変化の大きさを答える」問題は正答率が低く、「水の性質をもとに説明する」「空気のはたまり方をもとにして説明する」問題は、正答率が低く、無解答率も15%を超えた。日常の中で起こる事象とその理由について、予想をもとに実験を行い、結果と事象を関係付けながら説明させる指導を行う必要がある。その際、どのような実験器具等を用いて、どのように調べればよいか考えさせるとともに、これまで行った実験方法を思い出させたり、使用する実験器具を知らせたりし実験を充実させたい。科学的な言葉の意味を的確に捉え、実験観察の過程や結果をノートに説明・記述し振り返る活動も繰り返し行いたい。
教科の正答率	全体	60.9	64.5	64.2	1年間の植物の成長	79.4	82.0	80.0						
	知識	66.1	69.3	68.8	1年間の動物のようす	72.0	74.5	75.0						
	活用	50.1	54.5	54.5	天気の様子と気温	74.1	75.4	70.0						
領域別正答率	物質・エネルギー	50.5	55.0	56.3	電気のはたらき	51.6	51.7	53.3						
	生命・地球	70.7	73.5	71.6	動物の体のつくりと運動	80.7	81.8	75.0						
					月と星	58.6	62.6	62.5						
					物の体積と力	53.9	55.5	56.7						
					物の体積と温度	48.0	54.6	55.0						
					雨水のゆきと地面のようす	66.1	71.0	72.5						
				水のすがた	52.9	60.5	65.0							
				自然の中の水	75.7	77.7	75.0							
				物のあたたまり方	46.4	52.5	51.7							

令和3年度大分県学力定着状況調査結果総括<中学校2年>

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科 の 正 答 率	全体	73.5	73.5	65.3	問題 の 内 容 別 正 答 率	話し合いの内容を聞き取る	85.8	84.0	77.5	<p><結果概況> ○教科の正答率は、知識が県平均を下回り、活用が県平均を上回った ○領域別正答率は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で県平均を上回り、「読むこと」「伝統的な言語文化と言葉の特質に関する事項」で県平均を下回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「漢字を読む」「漢字を書く」「説明文の内容を読み取る」「文学作品の内容を読み取る」内容において県平均を下回った。正答率は全ての内容で全国平均を上回っている。漢字の読み書きについては、習得を目指した時間を計画的に設定するとともに、同音異義等、漢字のもつ特色についても指導する必要がある。また、小問ごとに詳しく見ると「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く」「読み取った内容を明確にして書く」問題は、無解答率が、それぞれ40.5%、14.6%と高くなった。意見文を書く場合などに、伝えたいことにふさわしい根拠が示されているか、資料の中から取り出した情報が正確に書かれているか等、観点に沿って文章を読み合い、交流する活動を取り入れたい。</p>			
	知識	78.1	78.3	69.5		漢字を読む	87.6	89.3	83.8				
	活用	63.7	63.4	56.5		漢字を書く	75.8	77.4	66.3				
領域 別 正 答 率	話すこと・聞くこと	85.8	84.0	77.5		文法・語句に関する知識	84.4	83.8	71.3				
	書くこと	62.0	60.4	51.3		説明文の内容を読み取る	67.1	68.0	61.3				
	読むこと	63.9	65.2	60.0		文学作品の内容を読み取る	59.5	61.5	58.3				
	伝統的な言語文化	82.6	83.5	73.8		食品ロスについてレポートを書く	43.7	43.7	41.7				
						作文	73.0	70.5	57.0				

社会				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科 の 正 答 率	全体	61.5	60.5	55.2	問題 の 内 容 別 正 答 率	地球のすがたをとらえる	53.7	53.5	51.7	<p><結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「飛鳥時代～平安時代」の内容において県平均を下回った。特に「奈良時代の人々の負担について複数の資料を基に考察する」問題では、県平均を4.7ポイント下回っている。歴史的事象の因果関係を理解させる際に、資料から何が読み取れるのか、歴史的背景はどのようなものか等、多面的・多角的な考察を促したい。また、「シルクロードを通じた東西の交流について、複数の資料を基に考察し表現する」問題の無解答率が22.1%と高かった。①複数の資料から条件に合致した情報を取り出す→②取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする→③比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って考察し、記述する といった段階を踏み、生徒の実態を把握しながら指導していく必要がある。</p>			
	知識	64.3	63.3	57.5		世界のすがたをとらえる	75.7	73.9	65.0				
	活用	55.9	55.1	50.5		世界の諸地域	53.8	53.2	50.0				
領域 別 正 答 率	世界の地域構成	53.7	53.5	51.7		古墳時代まで	77.2	74.9	69.0				
	世界各地の人々の生活と環境	75.7	73.9	65.0		飛鳥時代～平安時代	67.9	69.3	62.0				
	世界の諸地域	53.8	53.2	50.0		中世の日本	41.4	40.1	38.8				
	古代までの日本	72.6	72.1	65.5		日本の地域構成	60.7	58.3	48.8				
	中世の日本	41.4	40.1	38.8									
日本の地域構成	60.7	58.3	48.8										

数学				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科 の 正 答 率	全体	65.0	62.6	59.7	問題 の 内 容 別 正 答 率	正の数・負の数	91.7	88.5	83.3	<p><結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、正答率は全ての内容で県平均を上回った。 しかし、「文字式」の「十字の形の模様をつくるのに必要なタイルの枚数を求める」問題は県平均を6.4ポイント下回った。また、「文字式」の「示された式で求めることができる理由を数学的に説明する」「考えが適切でない理由をヒストグラムの特徴から説明する」問題は無解答率が23%台と高かった。与えられた問題場面について、具体的な数を用いて考察の対象を捉えることができるように指導するとともに、事柄が成り立つ理由を根拠を明確にし、数学的な表現を用いて説明できるように指導する必要がある。その際、ゴールとなる表現(説明・記述)の姿を教師が描き、指導することが大切である。</p>			
	知識	72.9	70.0	65.5		文字式	61.1	60.7	57.1				
	活用	45.5	44.7	45.6		1次方程式	59.6	58.7	57.5				
領域 別 正 答 率	数と式	67.2	66.1	62.9		比例・反比例	58.6	55.4	54.0				
	図形	74.9	70.9	67.5		平面図形	70.2	63.8	60.0				
	関数	58.6	55.4	54.0		空間図形	79.7	78.0	75.0				
	資料の活用	55.0	52.3	49.2		資料の散らばりと代表値	55.0	52.3	49.2				

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科 の 正 答 率	全体	57.1	55.5	53.5	問題 の 内 容 別 正 答 率	植物の分類	66.9	64.2	59.2	<p><結果概況> ○教科の正答率は、基礎、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「粒子」で県平均を下回ったほかは県平均を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に見ると、「気体の性質」「水溶液の性質」「地層」の内容において県平均を下回った。その中でも「れき、砂、泥などが長い年月をかけて固まった岩石＝堆積岩」の理解については、県平均を9.2ポイント下回った。ICTも含めた資料提示や目的をもった観察など生徒の実感を伴った理解を促したい。また、「メスリンダーの目盛りを読み取り、密度を求める」問題の無解答率が21.3%と高かった。科学的に探究する学習活動(仮説を基にした実験の構想・考察からの説明等)を充実させるとともに、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能(測定方法、データの処理等)を確実に身に付けさせたい。その際、既習事項が身に付いていない生徒に対する個別指導も行う必要がある。</p>			
	知識	56.8	55.3	55.2		動物の分類	65.3	57.7	56.7				
	活用	57.6	55.9	49.5		身の回りの物質とその性質	52.9	52.8	50.0				
領域 別 正 答 率	エネルギー	51.9	50.4	49.4		気体の性質	39.4	43.1	52.5				
	粒子	53.0	53.6	55.0		水溶液の性質	52.7	55.1	60.0				
	生命	66.4	62.0	58.3		物質の状態変化	67.1	63.1	57.5				
	地球	56.7	55.7	49.2		光の性質	58.9	53.6	50.0				
						音の性質	60.2	58.4	56.7				
				力の性質		39.1	38.9	41.7					
				火山		66.4	62.3	48.3					
				地層	46.9	49.2	50.0						

英語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科 の 正 答 率	全体	57.4	56.7	56.7	問題 の 内 容 別 正 答 率	リスニング(内容理解)	87.5	88.5	83.3	<p>(結果概要) ○教科の正答率は、基礎、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を上回った。</p> <p><課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「さまざまな英文の読み取り」「長文の読み取り」「単語の並べ替えによる英作文」の内容において、県平均を下回った。その中でも「読み取った内容をふまえて、英文を完成させる」問題の正答率が低かった。語彙の習得とともに、日常的に目的をもった読み取りについて指導する必要がある。また、「対話の内容を聞き取り、資料を基に英語で答える」「対話の流れに合った英文を書く」問題の無解答率が25%を超えた。「聞くこと」が目的をもって行う能動的な活動であることを念頭に置き、聞いて理解するだけの活動にならないようにしたい。さらに、対話練習から書く活動につなげる活動等、複数の領域を関連づける総合的な指導を行う必要がある。</p>			
	知識	63.3	62.6	61.0		リスニング(対話文の応答)	65.7	63.8	63.8				
	活用	47.1	46.5	49.2		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	67.4	65.1	70.0				
領域 別 正 答 率	聞くこと	73.3	72.3	71.7		語形・語法の知識・理解	56.9	54.9	55.0				
	読むこと	56.7	56.1	56.8		語彙の知識・理解	87.4	85.7	80.0				
	書くこと	44.1	43.7	43.0		さまざまな英文の読み取り	59.7	60.1	58.8				
						長文の読み取り	38.3	38.5	45.0				
						単語の並べ替えによる英作文	42.7	46.2	45.0				
				場面に応じて書く英作文		40.1	39.2	35.0					
				情報に基づいて書く英作文		37.7	35.2	38.3					
				3文以上の英作文	54.1	53.4	51.7						